

認知症についての相談窓口

相談日は、いずれも土・日・祝日および年末年始を除きます。



◆地域包括支援センター【高齢者のための地域の総合相談支援の窓口です】【相談時間】8:30~17:15

担当地区	住所	電話番号
麻里布・東・装港・小瀬・柱島	室の木町3丁目1-11	☎24-3781
川下・愛宕	牛野谷町2丁目12-38	☎34-1577
岩国・平田・藤河・御庄・師木野・北河内・南河内	室の木町3丁目1-11	☎24-3700
灘・通津	藤生町1丁目17-26	☎34-1313
由宇	由宇町中央1丁目10-11	☎63-3113
周東	周東町下久原1208-1	☎84-3615
玖珂	玖珂町4933-2	☎82-0368
錦・美川・美和・本郷	錦町広瀬1067-1	☎71-0055

◆市役所

【相談時間】8:30~17:15

名称	住所	電話番号
高齢者支援課	今津町1丁目14-51	☎29-2566

◆認知症疾患医療センター【認知症に関する専門医療相談の窓口です】【相談時間】8:30~17:00

名称	住所	電話番号
いしい記念病院 認知症疾患医療センター	多田3丁目102-1	☎44-1464 (センター専用)

まずは、事前に電話でご相談ください。相談は無料です。
精神保健福祉士等がご相談に応じます。秘密は厳守します。

◆健康福祉センター【認知症を含め心の健康に関する相談窓口です】【相談時間】8:30~17:15

名称	住所	電話番号
山口県岩国健康福祉センター	三笠町1丁目1-1	☎29-1525

◆若年性認知症支援相談窓口【若年性認知症についての相談窓口です】【相談時間】9:00~17:00

住所	電話番号
県立こころの医療センター（宇部市大字東岐波4004-2）内に設置	☎0836-58-2212

若年性認知症支援コーディネーターが、医療・福祉・就労等の相談に応じます。

この認知症ガイドブックに関するお問い合わせは、市役所高齢者支援課 ☎29-2566 まで

知って、気づいて、相談するために

改訂版

認知症ガイドブック

（認知症ケアパス）

認知症は早期診断、早期治療がとても大切です。「もの忘れ」は最も多い初期症状ですが、原因により様々な症状が見られます。認知症に早く気づき、適切な治療を行い、周りの人の気づかひや支えがあれば、**症状を改善したり、進行を緩やかにすることができます。**「認知症かもしれない」「いつもと様子がちがう」そう思った時には、すぐに相談しましょう。



認知症には様々な種類があります

アルツハイマー型認知症

認知症の半数以上を占めています。もの忘れから始まり少しずつ進行します。様々な薬が開発され、早期治療をすれば、症状の進行が緩やかになります。

レビー小体型認知症

幻視や妄想、立ちくらみや失神などの自律神経症状、手のふるえ、歩行障害、繰り返す転倒など様々な症状があります。初期にはもの忘れが目立たないこともあります。

前頭側頭型認知症

もの忘れは初期には目立ちません。最初は、怒りっぽい、ルールを無視した行動をとるなど性格の変化が目立ちます。同じ言葉や行動を繰り返すこともあります。

血管性認知症

脳梗塞や脳出血など、脳の血管障害が原因となります。記憶障害の他に、うつ症状や、言語障害や運動麻痺などの神経症状を伴うことがあります。脳の血管障害を起こさないような予防が大切になります。

認知症の原因となるその他の病気

正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫、甲状腺疾患など、様々な病気が認知症の原因になります。原因となる病気によっては治療により劇的に改善するものもあります。これらの病気を見逃さないために頭部CTや血液検査などが必要となります。

気になることがあれば、はじめにお近くの地域包括支援センターにご相談ください。

岩国市

令和6年4月

認知症の状態や先の見通しについて確認してみましょう。

※いくつかの項目に当てはまる場合は、認知機能の衰えのサインかもしれません。お近くの「地域包括支援センター」にご相談ください。

MCIは健全な状態と認知症の中間の状態

MCIは健全と認知症の中間にあって、その後の対策ではどちらにもなりうる。



出典：あたまとからだを元気にする MCI ハンドブック
国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター

「認知症の予備軍」と言われる MCI(軽度認知障害)とは？

「MCI(軽度認知障害)」とは、いわば**認知症の前段階**で、軽い記憶障害等はあるけれども基本的な日常生活は大きな支障なく送れる状態です。

現在MCIの状態にいる人が約400万人いて、年間約13%が、認知症へ移行していると言われています。

MCIの段階で発見して適切に対応すれば、特にアルツハイマー型認知症への移行を予防、または先送りできると言われています。

ちょっとした異変のサインを見逃さないようにしましょう。

豆知識 「若年性認知症」とは？

認知症は、一般的には高齢者に多い病気ですが、**65歳未満で発症した場合「若年性認知症」と**されます。

発症年齢の平均は51.3歳で、約3割は50歳未満で発症します。

働き盛りの世代のため、仕事のミスが重なったり家事がおっくうになっても、疲れやストレスと思い受診が遅れてしまうことがあります。

また、更年期障害、うつ病などほかの病気と混同、進行してからみつけるケースもあります。**進行を遅らせるためにも、早期に受診し診断を受けることが大切です。**



認知症の状態

認知症の人の様子(見られる症状例)

暮らしの中で困ること(例)

本人・家族向けアドバイス

	気づき～軽度	中等度	重度
●最初にももの忘れが目立ちはじめます。	●もの忘れが激しくなり、印象深い出来事も忘れるようになります。	●直近のことだけでなく、古い記憶もあいまいになります。	
●日時や曜日、季節が分かりにくくなります。	●場所の見当をつけることが難しくなります。	●人物も見当をつけることが難しくなります。	
●何かを計画し、順序立ててやり遂げることが難しくなります。	●徘徊などの問題行動や精神症状がでやすくなります。		
<input type="checkbox"/> 同じことを何度も言ったり、質問したりする。	<input type="checkbox"/> いつどこで何をしたのか忘れる。	<input type="checkbox"/> 近所(慣れた場所)でも道に迷ったりする。	
<input type="checkbox"/> さっき言ったことを覚えていない。	<input type="checkbox"/> 自宅から離れたところ(慣れていない場所)で道に迷う。	<input type="checkbox"/> 自宅内でもトイレの場所がわからない。	
<input type="checkbox"/> 日にちや曜日が分かりにくくなる。	<input type="checkbox"/> 家にいるのに「家に帰る」と言う。	<input type="checkbox"/> 家族がわからなくなる。	
<input type="checkbox"/> ものをなくしたり、盗られたと言ったりする。	<input type="checkbox"/> 食事をしたのに「食べていない」と言う。	<input type="checkbox"/> 物を見ても、それが何かわからない。	
<input type="checkbox"/> テレビのリモコンやATMが使えなくなる。			
●はじめの頃は、気持ちの変化やもの忘れが見られることで気づくことが多いです。	●家事全般で支援が必要になります。	●身の回りのこと全般で支援や介護が必要になります。	
●また、調理や買い物など、今までできていた家事などで見守りが必要になってきます。	●また着替えや入浴など、身の回りのことにも支援が必要になってきます。	●肺炎や転倒による骨折など、合併症が増えてきます。	
<input type="checkbox"/> イライラして怒りっぽくなる。	<input type="checkbox"/> ガスの消し忘れがあり、鍋を焦がすことが多くなる。	<input type="checkbox"/> 服をうまく着ることができない。	
<input type="checkbox"/> 一人であるのが不安になったり、外出するのがおっくうになったりする。	<input type="checkbox"/> 薬やお金の管理ができない。	<input type="checkbox"/> 入浴するのをいやがったり、体がうまく洗えなくなる。	
<input type="checkbox"/> 趣味や好きなテレビ番組を楽しめなくなる。	<input type="checkbox"/> 季節にあった衣服を選べなくなる。	<input type="checkbox"/> トイレの水を流すのを忘れてたり、排泄の失敗が増えてくる。	
<input type="checkbox"/> 料理の味が変わったと家族に言われる。	<input type="checkbox"/> 毎日の入浴を忘れることがある。		
<input type="checkbox"/> 買い物に行くと同じものばかり買ってくる。			
●早期に診断や治療を行うことが大切です。治療開始が早いほど薬物療法の効果も高く、別の病気が見つかる可能性もあります。いつもと違う様子や困ったことがあれば、まず、かかりつけ医や地域包括支援センターへ相談しましょう。	●火の不始末や道に迷うなど、思いがけない事故に備えて安全対策を考えましょう。	●家族の介護負担が増えてきます。相談しながら、医療や介護サービスを上手に使いましょう。	
●本人が認知症の症状を自覚し、不安に思っていることもあります。	●家族は、本人の行動の変化にとまどいや不安を感じたり、介護が辛いと感じる事が増えてきます。一人で抱え込まず、親族等の身近な人にも理解してもらいましょう。医療や介護サービスの利用などを検討してみましょう。	●急に体調を崩しやすくなります。肺炎など、ほかの合併症の症状や予防策について知っておきましょう。	
●本人ができることを大切に、家族はできない部分を支援します。			
●本人や家族が話し合い今後の治療方針を決めたり、利用できる制度やサービスを調べたりする「認知症に向き合うための準備」を整えましょう。			



※アルツハイマー型認知症を中心に記載しています。病気により症状が異なり、症状の現れ方には個人差があります。